

# クラス担任のための Career Guidance

2016 >> VOL.33

「キャリアガイダンス 特別編集」



## 失敗力を育む

生徒がいろいろな場面で積極的に行動したり、何かに挑戦したり。そんな力を育てていくためには、多少の失敗にもめげない様々な体験が重要。そのために必要な環境づくりを考えてみます。

取材文/清水由佳(ライター) キャリアカウンセラー

## 前向きにチャレンジする環境づくりとは

### 発言しやすい雰囲気 クラスづくりが「挑戦」への一歩

これからの社会を生き抜く力として、自ら考え行動し、物事を成し遂げる力が求められることが多い。だからこそ、多くの企業で、採用試験の書類や面接において「これまでに挑戦してきたこと」と、明確に「挑戦」エピソードを聞かれることが増えている。ところが、最近の高校生は「挑戦」に尻込みしがちだと感じている先生は少なくないはず。実際、高校生自身に、「将来社会で働くにあたり、必要だと思う能力と現在もっていると思う能力」を問うと、必要とされることとして1番多かったのが「主体性」で2番目が「実行力」だが、自分ももっていると思う力とのギャップが最も大きかったのも、この2つの力だった(表参照)。

筑波大学附属坂戸高校の栗飯原匡伸先生も、生徒の挑戦意欲の低さが気にかかっている。

「コミュニケーションが小さくなっていると思うんです。友達ウケさえすればいいというか。そのため、あえて何かに

チャレンジしていくことが難しくなっていると思います(栗飯原先生)

そのような小さなコミュニケーションは、人の気持ちを考えすぎて発言を控えるなど、さらに悪循環に陥る傾向も。よく言う「空気を読む」が行き過ぎる状態といつてもいい。先のアンケートでも、高校生自身「チームで働く力の中の「傾聴力」を、現在もっている力として高くあげているあたり、その傾向を見て取れると言えらるのではないだろうか。

「自信がない生徒が多いですね。だから、まずは発言しやすい雰囲気をつくるのが大事だと思っています」(栗飯原先生)

### 生徒の成長を「信じる」 絶対的な姿勢が大切になる

中高一貫校の千葉県の私立日出学園の進路指導部長 釣島ゆきの先生も、そんな生徒への信頼の重要性を痛感している。

「昨年度から、中学2年生の職業体験は、学校がお膳立てするのではなく、生徒が自分の興味のある職業を調べ、それに関する企業や職場を探し、自分でアポイントをとる。もちろん、断られることもあります。でも、そのような経験も含め、生徒の成長にきつとつながる。実際、一生涯懸命職場を探して、普通だとなかなか見ることのできない職業、職場を体験してきた生徒ほど達成感があります。そういう生徒が報告に戻ってきたときのものすごくいい表情は、本当に印象的です」(釣島先生)



日出学園中学・高校  
進路指導部 部長  
釣島ゆきの先生  
国語科教員として、中学・高校生の授業を受け持つ傍ら、3年前より進路指導部長を務める。生徒だけでなく保護者も、既存の枠組みの中で生き残ることを考えがちな傾向があるなかで、いかに低学年から将来を考える機会をつくるかに奮闘。



筑波大学附属坂戸高校  
国語科  
栗飯原匡伸先生  
一橋大学で学生支援を行うなど、大学での教職員経験や公立高校教員を経て、4年前より現職。今年度より、1年生全体のアンガーマネジメントのプログラムづくりにも挑戦している。大東文化大学で教職科目の教鞭もとる。

### 「挑戦」できる生徒を育むヒント

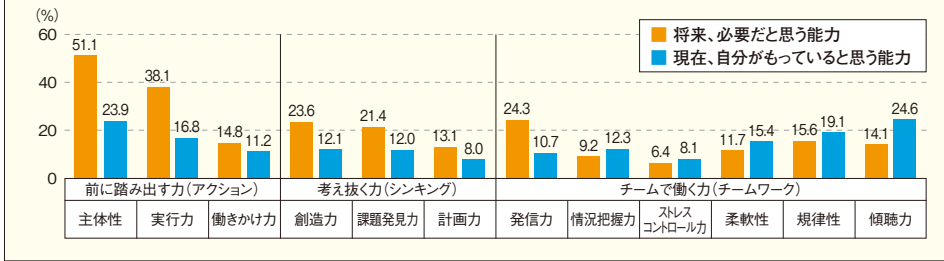


明治大学 文学部  
諸富祥彦教授  
もとみ・よしひこ/臨床心理士、教育学博士。全国の悩める教師のためのセルフヘルピングやネットワークを支援する「教師を支える会」代表。http://morotomi.net/

- 1. 安心感・安全感を抱ける関係をつくる**  
生徒がまず、何かに「挑戦」しようと思ったとき、その場が「安心・安全である」ということが大事です。つまり、教師との関係において、常に評価基準をおびえてしまっているから挑戦ができない。「どんなときも、先生は見離さないよ」という関係づくりが大事です。例えば、三者面談や進路面談などでも、生徒が「こんなことを言ったら、何バカなこと言っているんだ」と叱られるのではと思うから、チャレンジしようしない。ちょっと背伸びしているなど思っても、「そう考えているんだね」と受け止めてあげる。そんなふうにはチャレンジを受け止める姿勢が、まずは大切です。
- 2. 何度でもチャンスを与える姿勢を示す**  
チャレンジすれば、もちろん失敗することもあります。うまくいかなかったとしても、それを責めるのではなく、「気にするな。大丈夫だ」と安心させる声かけも大事です。よく、「うまくいかなかったことを反省して次に生かすために、振り返りをしっかり行おう」と言いますが、教師がそれをやらせることは「ダメだった」という評価をしてしまうことになり。ダメだったことは、本人が一番よくわかっています。特に最近、チャレンジして努力しても報われない時代、そんな風潮が強くなっています。でも、チャレンジしなければ何も手に入らないという事実です。だからこそ、「大丈夫だ。次頑張ればいい」と、何度でもチャンスを与える姿勢を、教師自身が示すことが大事です。
- 3. 教師自身が、挑戦する姿勢を示す**  
社会全体の中にある、挑戦しても必ずしも報われないというような風潮を、敏感に高校生が受け止めているのです。先生たち自身も、何かに挑戦することを、ぜひ態度で示してあげてください。また、そのような挑戦や、ご自身の過去の失敗の話など、高校生にぜひ話してください。アドラー心理学の勇気づけです。人生にはやってみることも多いけれど、100回のうち3回でもできればいいじゃないかと。そして、「先生と一緒に走り抜けよう!」という雰囲気をつくっていくことも大事です。そういう意味では、特にクラス担任を担当する30代の先生方は、まさに生徒にとって良き「アニキ・アネゴ」(笑)として、ぜひ頑張っていたいただければと思います。

「生徒には挑戦するように言いますが、どこかで教師自身が躊躇しているのではないのでしょうか。間違っているのだからやってみる。生徒が主体的、自主的に動き出すのをどこまで待てるのか。教師自身が試されているのかもしれません」(釣島先生)

### 将来社会で働くにあたり、必要だと思う能力と現在もっていると思う能力(3つまで回答)



「高校生価値意識調査2015」(リクルート進学総研・2015年9月調べ)より

リウナビ進学 高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための

# Career Guidance

キャリアガイダンス 進路指導・キャリア教育の専門誌

【最新号】Vol.413 2016年7月発行

■特集  
教室…部活動…学校外…  
「リーダーシップ教育」で生徒が変わる

- リーダーシップ教育とは?  
早稲田大学 大学総合研究センター 日向野幹也
- これからの社会における働き方  
リクルートワークス研究所 主幹研究員 豊田義博  
面白法人カヤック/ライフネット生命保険株式会社
- 動き始めた大学・高校の現場  
立教大学経営学部/藤沢清流高校(神奈川県・県立)  
東京都 教育委員会・都立高校
- 連載  
●アクティブラーニング型授業への挑戦  
鳥取城北高校(鳥取・私立)
- 地域課題解決型キャリア教育  
伊佐農林高校(鹿児島・県立)

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送)  
バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます  
http://souken.shingakunet.com/career\_g/